



国名	マラウイ共和国 (Republic of Malawi)
面積	118,484平方Km (日本の約1/3)
人口	1756万人, 人口増加率2.9% (2018年: マラウイ国勢調査)
首都	リロングウェ (Lilongwe)
独立	1964年7月6日
言語	英語 (公用語), チェワ語 (国語)
政体	共和制
大統領	ラザルス・チャクウェラ

マラウイ洪水被害に支援要請

2月9日付けの朝日新聞や上毛新聞などに、前日に群馬県太田市を訪れたクワチャ・チシザ新駐日マラウイ大使の記事が掲載されています。

以下、朝日新聞から。

東京五輪のホストタウンとしてアフリカ南部マラウイの選手を受け入れた群馬県太田市を、同国のクワチャ・チシザ駐日次期大使 (信任状捧呈は2月9日 KWACHA編集部注) が8日、表敬訪問した。

同国は1月に洪水被害に遭ったばかりで、市は支援を申し出た。市出身の青年海外協力隊員がマラウイで活動した縁でホストタウンになり、五輪前、陸上やアーチェリー、柔道の選手が市内で事前合宿した。

マラウイは1月に洪水で約21万人が被災する大災害に遭った。大使館によると、1月に熱帯性暴風「アナ」の豪雨と強風で洪水が発生し、ほとんどの地域で家や農作物が流された。1月26日現在で4万8216世帯 (21万6972人) が被災し、10人が死亡、107人がけがをしたという。

チシザ氏は「手助けしていただき、感謝している。新たな困難に直面している。水害で大変な状況だ。支援していただきたい」と話した。

市は消毒液やせっけん、衣類のほか、米や乾麺など食料も含めた支援物資を3月中旬に船便で送る予定だ。このほか、消防ポンプ車やトラックなど中古車4台の寄贈も申し出た。清水聖義市長は「市民と市役所で最大限、サポートしていきたい。できるだけ早く、気持ちだけでも強くなることを祈っている」と応じた。

チシザ氏らは太田商工会議所も訪問し、支援を要請した。会談後、加藤正己会頭は「台風19号 (2019年10月) では市内でも多くの方が水害に遭った。気持ちは分かる」と話した。会員らに呼びかけて義援金を集めるという。



新駐日マラウイ大使 クワチャ・チシザ氏 ご挨拶

Address by Malawi's New Ambassador HE Kwacha Chisiza



It's a great honor and privilege to join the fraternity of The Malawi Society of Japan in my capacity as the new Ambassador of Malawi to Japan after the presentation of my Credentials to Emperor Naruhito on the 9th February 2022.

It is worth mentioning that Malawi recently launched MW 2063, which expresses our vision and aspirations as Malawians. We envision a youth-centric inclusive wealth-creating and self-reliant nation. We aspire to be an industrialized upper-middle-income country that will finance its development needs by 2063. This Vision is anchored on three key pillars: Agriculture productivity and Commercialization, Industrialization, and Urbanization.

I come at a time when the entire world is battling with the COVID 19 pandemic. Malawi, just like the rest of the world, is facing many challenges that have affected the country's economy and people's lives in many ways. Thankfully, due to the good bilateral relations between Malawi and Japan which has existed since 1992, the Japanese Government continues supporting Malawi in its development efforts.

Malawi and Japan have and continue to collaborate under the TICAD, which is aimed at enhancing the effective implementation of the African Union Agenda 2063. With the upcoming Eighth TICAD conference to be hosted by Tunisia, Malawi Embassy will closely work with the Malawi Society in Japan in preparation for the TICAD conference.

Over these decades, Malawi has and continues to benefit from its cooperation with the Government of Japan in infrastructure, energy, health, agriculture, culture, investment in water supply, and irrigation just to mention but a few.

Finally, as the new Malawi Ambassador to Japan, I avail myself to contribute articles in your very informative magazine KWACHA, which, coincidentally, is my first Name. I am looking forward to interacting with you all and strengthening the cordial relations that have existed for a long time between the Malawi Embassy and The Malawi Society of Japan.

Arigatou gozaimasu

日本マラウイ協会 入会ならびに年会費納入のお願い



当会は、両国間の理解を深め、文化、スポーツ、経済、科学技術等の協力を通じ、相互の繁栄に寄与することを目的として1983年2月26日設立した任意団体です。会員が納入する会費で運営を行っています。ご入会、会費納入をお願いいたします。

- Homepage: www.japan-malawi.org
- Email: info@japan-malawi.org
- Facebook: facebook.com/japan.malawi
- Twitter: twitter.com/JpMalawi
- YouTube: Malawi Society of Japan

区分	入会金	年会費	備考
正会員	1,000円	3,000円	
賛助会員	0円	1,000円	郵便物送付無し
団体会員	3,000円	10,000円	公的・非営利団体
法人会員	10,000円	30,000円	協賛企業

※会費適用期間: 4月1日から翌年3月31日まで

支払方法	口座情報等
銀行振込	三菱UFJ銀行 東恵比寿支店(普)0255739 日本マラウイ協会事務局
郵便振替	ゆうちょ銀行 〇一九店 (ゼロイチキユウ店) (当)0013125 日本マラウイ協会 ゆうちょ銀行送金: 口座番号00190-7-13125
PayPal	ホムパ-ジ「募集」パ-ジ下部 (Card払可)

クワチャ・チシザ新大使をお迎えして 日本マラウイ協会会長 西岡周一郎



昨年、当会では青年海外協力隊マラウイ派遣50周年記念の周年事業を開催しました。累積派遣者数1,800名を超え世界一の派遣実績を誇り、隊員各位が積み重ねて来た努力の歴史は、日本・マラウイ両国関係の中でも貴重な草の根外交の成果であり、これからのさらなる発展に向けて思いを新たにしました。

近年は経済のグローバル化が進み、全地球規模での課題解決が叫ばれる一方で、コロナ感染症の世界的広がりや社会・経済活動の停滞、政治の分断、地政学的な紛争、政治的暴動、国境を越えて広がる人道危機など、世界を見渡せば脅威の拡散も進んでいます。

アフリカにおいても、貧困、気候変動による自然災害、医療保健衛生、経済の高付加価値化など課題があり、その多くは、自国だけでは、解決が難しく、多くの関係者の協働が求められます。

これからの50年を見ればアフリカは世界で最も人口増加が見込まれ、膨大なインフラも必要とされ、社会変革や新しいテクノロジーが急速に広がりを見せる、まさにアフリカが躍動する半世紀になると期待されます。このアフリカの発展を実現するには、国際社会の平和と安定と同時に、国際協調の重要性と信頼が必要不可欠の事柄の出来ないものです。

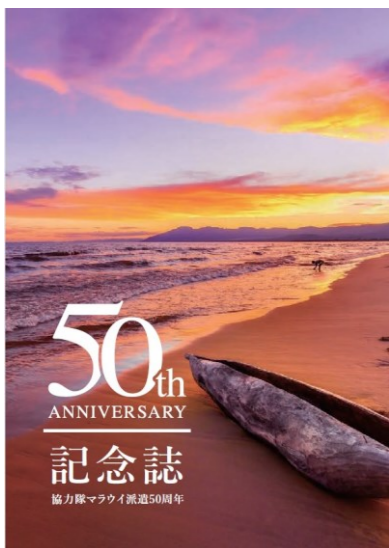
このような機運の中、クワチャ・チシザ新駐日マラウイ大使が着任されました。次の50年に向けて、人と人の交流を通じた相互理解と信頼関係の維持・強化を基礎に両国関係のさらなる発展に努めるべく、会員各位、マラウイを愛する皆様の参画並びに一層のご支援を期待します。



1800名を超える隊員たちの半世紀にわたる協力隊活動の記念誌(120頁)が、JICAマラウイ事務所の編纂で3月に発行されました。

《内容》 祝辞(ラザルス・チャクウェラ・マラウイ共和国大統領、岩切・駐マラウイ大使、西岡・当代会長)、ご挨拶(北岡・JICA理事長)、50周年に寄せて(柳沢・当会副会長、山本・協力隊を育てる会会長) 歴代隊員から寄せられた思い出&メッセージ(貝塚顧問含む47名)、マラウイ側から寄せられた思い出&メッセージ(14名)、座談会(現地職員が語るマラウイ協力隊の軌跡) 50周年特集記事、協力隊マラウイ派遣の歴史、50周年関連行事、マラウイ隊員の今(14名)

- PDF版は、JICAマラウイ事務所のサイトから無料でダウンロードできます。「マラウイ隊員派遣50周年記念誌」で検索してください。
- 冊子は、当会から希望者に送料ご負担で送付いたします(百部まで)。



昨年3月から11月にかけて、「協力隊マラウイ派遣50周年記念事業」としてオンラインの集いを4回実施しました。6月の参加者104人、8月は107人と、コロナ禍の中でもオンラインを駆使して集いが出来る当会の強みを活かして続けてまいりましたが、11月は今年度のメインイベントとして「50周年記念オンラインの集い」を、日本とマラウイをつなぎ式典として開催しました。はじめに当会から西岡周一郎会長が挨拶。式辞として小林 広幸協力隊事務局長に頂き、マラウイからは岩切敏在マラウイ共和国日本国特命全権大使から式辞、ナマサス駐日マラウイ臨時大使(当時)から式辞がありました。

マラウイJICA事務所でスタッフをされていたマラウイ人7人に座談会形式で思い出を語って頂き、協力隊OVとしては、当時は思い起こす機会になりました。

さらに椎木睦美当会理事の記念講演、OVによる派遣地域別分科会と続きました。3人の派遣中の隊員(井上里奈さん、寺門香音さん、田野辺裕史さん)からは、各自スマートフォンで撮影編集した動画で、現地の様子と活動報告がありました。また、首都リロングウェ市内で協力隊派遣50周年記念写真パネル展の紹介と写真パネルを前に大統領府・内閣府のマレタ担当官から記念スピーチが行われ、50年に亘る協力隊の活動がマラウイの各分野に貢献したことに対する謝意を述べられました。最後に閉会の挨拶をJICAマラウイ事務所の丹波一広所長から頂きました。

コロナ禍の中、オンラインをフルに活用し、日本とマラウイを結び交流出来たことは大きな成果です。参加者は145名と盛会でした。終了後は、恒例となっているオンライン交流会も実施しました。(理事・吉田 均)

日本マラウイ協会の活動(2022年2月~)

オンラインで理事会、サロン等を開催しています。協力隊まつりはリアル会場に出展予定です。7月16日、対象をアフリカ大陸全土に広げオンライン催事「アフリカを語る集い2022」(共催: 青年海外協力協会)を開催予定です。5月1日まで、発表募集中です。詳細は、ホームページを参照ください。

日付	内容
2/19(土)	サロン(仲井利明様)
4/16(土)	サロン(田村美津子様)
4/23,24(土,日)	協力隊まつり(JICA地球ひろば)
5/14(土)	第40回定例総会
7/16(土)	アフリカを語る集い

マラウイ協会理事退任にあたり

東京女子医科大学 国際環境・熱帯医学講座 客員教授
屋久島尾之間診療所 理事長
杉下 智彦



このたび日本マラウイ協会理事を退任することにあたりまして、会員の皆様へご挨拶させていただきたいと思います。私は、青年海外協力隊の平成7年度2次隊員として1995年12月から1998年3月まで国立ゾンバ中央病院の外科医師として活動しました。当時はHIVエイズパンデミックの真ただ中にあり、治療薬もない中で3000例を超える重症者に手術を行い、1万人以上の患者さんを看取りました。コロナ禍での医療崩壊を彷彿とさせる野戦病院の現場に、たった一人の外科医として200万人の医療圏をカバーした経験は、その後、アフリカの25を超える国々で健康課題に取り組む原点となりました。

このたび、大学を退職し、マラウイやアフリカ大陸での地域保健システム創りの経験を活かし、屋久島で診療所を承継することにいたしました。離島診療とアフリカ診療の課題は非常に似ています。屋久島に行きましても、私の第2の故郷、マラウイの支援は永遠に継続していきたいと思っています。日本マラウイ協会の皆さまには大変お世話になりましたことを、心より感謝いたしております。屋久島へお越しの際は、「マラウイのことを知ってますよ!」とぜひ声をかけてください。

マラウイ隊員近況報告

2021年度1次隊 リウオンデ小学校教育 井上 里奈



こんにちは。私は首都リロングウェとかつての首都ゾンバを結ぶ幹線道路沿いにあるマラウイ南部リウオンデのセントテレザ小学校で2021年11月から活動しています。シーレ川沿いで標高の低いリウオンデは、リロングウェから戻るといつも「やっぱり暑い」と感じますが、野生動物がみられるリウオンデ国立公園も近く、列車の警笛がいつも聞こえる魅力的な町です。私は現在、日本の小学6年生にあたるSTD6の子どもたちに対してマラウイ人の先生と一緒に算数を教えています。

ダンボールやキャップなどの身近な素材を使って基礎学力の向上を目指して試行錯誤しています。STD6の子どもたちでも、多くはかけ算やわり算だけでなく、繰り上がりや繰り下がりのある足し算ひき算もスラスラできないのが現状です。毎日5分程度、耳で聞いて計算する練習を繰り返し継続しています。最初は集中力が続かず、問題の間でザワツとなる子どもたちでしたが、少しずつ慣れてきて2ヶ月経った今では10問程度なら集中してできるようになってきました。黒板自体もチョークで書いても見にくく、書き写すのに時間がかかります。ただ単純に写すだけではなく、考えながら、そして視覚的聴覚的支援を行った板書ができるように工夫していきたいと思っています。

放課後の算数クラブを始め、もっと算数を学びたいという子を中心に算数の面白さを伝えたり、計算練習を繰り返したりする予定です。少しでも多くの子どもたちが算数を好きになってくれると嬉しいです。

また、平行して教材の整理を始めました。せっかく寄付してもらったものもうまく使いこなせずに眠ってしまっています。まずは学習している教室の近くに運んでみる、使い方を考えて示してみるなど、少しでも先生たちが使ってみようと思えるような環境づくりにも挑戦中です。

活動でも生活でも、毎日いろいろな発見がありとても楽しいです。優しくしてくれるマラウイ人に感謝しつつ、少しずつ私自身も何か残していけるといいなと思います。Zikomo Kwambiri!

発表・協賛募集中

Call for Presentations

Japan-Africa. Online / 2022

ONLINE

アフリカを語る集い 2022

7/16 Sat

産業・貿易
Industry/Trade

医療・教育
Medicine/Education

地域事情
Local Issues

基調講演・シンポジウム
Keynote Lecture, Symposium

草の根協働 Grassroots Collaboration

アフリカと草の根協働を行っている方々の積極参加を求めます

We welcome people who participate in grassroots activities in various fields to discuss Africa now and its future.

申込フォーム Application Form

<https://tinyurl.com/japan-africa2022>

参加費: オンラインは無料。
言語: 日本語・英語。
日→英は同時通訳あり。

Admission: Free for online participation
Language: Japanese and English, Simultaneous interpretation from Japanese to English will be available.

主催: 日本マラウイ協会
共催: 公益社団法人青年海外協力協会
<https://japan-africa.online/2022/>

Host: Malawi Society of Japan
Co-Host: Japan Overseas Cooperation Association
Contact: info@japan-africa.online